

去る8月8日・9日の東京研修は、普段なら絶対にできないことが目白押しの、充実した2日間になりました。この感想文では、その中でも3つのことについて書いていきたいと思えます。

1つ目は、1日目の午前に行われた、グループセッションです。

第1クールの相馬円香氏は、主に幼少期のことや企業経済、表現力についてのお話をしてくださいました。幼少期やIR部署時代に培ってきた(のでしょう)エネルギーで表現力豊かな話し方に、私は圧倒されました。「1」を聞くと「100」が帰ってくるような、そんなイメージです。これまで、色々な方の講演を聴く機会がありましたが、圧倒される印象を受けたのは初めてでした。また、私が相馬氏の講演で印象に残ったのは、ジェスチャーです。私も多少のジェスチャーはしますが、無意識であり深い意味はないものです。それに対し相馬氏は、ジェスチャーが話を補助して、なくてはならないものに見えました。このジェスチャーはIR部署で覚えたものだそうです。相馬氏によると、欧米では、意思表示は全力で目立つようやるものだそうです。普段から意識すれば、2年半後の面接やその先の将来でも役に立つと思うので、今後は意識しようと思いました。

第2クールの川崎有治氏は、ドイツに14年、北京に2年住んでいた経験があります。川崎氏は大学時代「海外で働きたい」「教師になりたい」という2つの夢があり、富士フィルムに就職して前者を先に達成されました。そして就職から41年後に、大学に戻って教員免許を取得されました。「青春時代の忘れ物を取りに行った」と川崎氏はおっしゃっています。自分の夢を両方実現しようと思う人はいても、実現する人は数少ないのではないのでしょうか。また、川崎氏は日本と海外のコミュニケーションの違いについて熱弁してくださいました。「日本は察しの文化(ハイコンテキスト文化・高文脈文化)である。海外は、言葉の文化(ローコンテキスト文化・低文脈文化)であり、『以心伝心』は通じない。」後日私も調べましたが、日本で通じててもローコンテキスト文化の国では通じない言葉が、かなりあります。「それでは、そういうことで。」「空気を読んで。」「(電話で)〇〇さんいらっしゃいますか？」などがその例です。

これまでのことを踏まえた上で、私は次のことを考えました。グローバル社会は、ハイ・ローのどちらだろう。間違いなくローコンテキストだろうと私は思います。ローコンテキストの特徴として、論理的・直接的で単純明快な表現を好む(=曖昧な表現を嫌う)ということが挙げられます。ローコンテキストの言語は、主語や目的語がはっきりと明示されることがほとんどなので、ハイコンテキストの人も誤解しにくいという利点があるのです。日本語は英語からコンテキストのハイ・ローがかけ離れた言語なので、英語の勉強が重要です。重要ですが、川崎氏は勉強について次のようにおっしゃいました。「たとえ英語をペラペラと喋られたとしても、中身がスカスカでは意味がない。今は教養を高めましょう。」

グローバル社会に対応する方法=英語を学ぶ、と思うだけでは（当たり前ですが）教養がまだまだ足りないのだと痛感しました。

第3クールの林茉莉子氏は、日本と海外の関係や、外国人についての話を主にしてくださいました。林氏の話の中で特に印象に残ったことの1つは、NGOを立ち上げた理由です。NGOには、政府にはない強みがあるとおっしゃいました。「政府の支援の場合、政府は『経済がしっかり成長した頃に、その国と貿易をして利益を得よう。』と考えています。利益を得られる見込みのない国には支援をしないということです。NGOは国の利害に関係なく、支援をすることができます。」日本に利益が生まれるだろうと思うところだけに支援をする。支援のために税金を投入するということを考えれば当たり前ですが、利益の見込めない国がさらに孤立していくのも当たり前です。林氏の話聞いて、私はNGOという存在がこれまでよりもはるかに社会的に意義のある組織であると感じました。

2つ目は、1日目の午後に行われた、OBOG懇談会です。東大に受かるための秘訣やポイント、東大に受かってからの話を聞くことができました。その中でも特に印象に残っているものを紹介します。まずは、農学部4年生の方。「今努力して勉強している人たちは大学で相当辛い。東大（特に理III）には『勉強超楽しいっす!!□!!□!』という人がうじゃうじゃいる。」勉強が楽しいと感じる人と辛いと感じる人が戦ったら当然楽しいと思う人が勝つでしょう。念じるだけで楽しいと感じるようになれたらいいのですが、残念ながら私は念じてもなれないので、今は演習を積んでいつか楽しいと思えるようになりたいと思います。できれば高校生のうちになれたらいいのですが、大学で勝ち、難関試験に受かるために、楽しめるようになりたいです。

続いては、ほとんど予備校に行かず合格した、法学部3年生の方。「受かるには、演習量が必要。ノートにまとめるよりも大事。」意外な言葉でしたが、私はこのように解釈しました。ノートにまとめて情報を整理するより、情報を頭に入れていく方が大事である。そう考えれば、納得がいきます。そして、この方はノートを作っていると思います。あくまでもメインは、情報を頭に入れることです。

最後は、工学部の方。「(勉強スタイルについて) 周りが～～だから自分も～～にしよう、という考えはやめましょう。」私は自分の勉強スタイルがまだよくわかっていません。勉強スタイルが決まったらきっと勉強の効率が良くなると思うのですが、まず、どのような勉強スタイルがあるのかわかりません。私に合う勉強スタイルを探す必要があると思うので、今年中に見つけたいと思います。

3つめは、2日目に行われた、東大キャンパス見学会です。東大を訪れるのは初めてのことだったのですが、なんとなく貫禄のようなものを建物から感じました。駒場キャンパスで行われたワークショップとプレゼンテーションでは、高校の勉強や東大の利点について話を聞きました。東大の学部決定のシステムは、「1年半の間に本当にやりたいことが分

かるかもしれない」という利点があります。ですが、「大学に受かったのに希望の学部に行けないなんて……」と悲しむ人もいます。それが実力主義の世界なのだと痛感しました。本郷キャンパスで行われた個別相談会では、受かるための勉強のポイントについて詳しく教えていただきました。私の中で1番納得したのは、「センター試験は、クレームが来ないように完璧に作られている」ということです。つまり、最高の良問が（ネットで）無料で手に入るということ。今はそれどころではありませんが、これは特に大切にしようと思いました。

二日間という短い時間でしたが、この研修に参加したことで、自分には何が足りないのか、どのような学習や教養が必要なのか、今は何をすべきなのかについて深く考えることができました。しかし、考えるだけで自分が変わるわけがありません。私に必要なのは、「将来的にこれが最善」と思ったことをすぐに実行することだと思います。砕けた言い方をすると、「『いつかしなければいけないから今やろう』と思ったらすぐできる」ようになりたいということです。考えることは今したので、あとはやるのみです。

東京研修にご協力していただいた皆様、本当にありがとうございました。

最後に、これを読んでいる、来年以降東京研修に行く皆さん。キャリーバッグは移動にとても不向きです。私と同じ苦勞をしてほしくないなので、研修にはリュックサックをお勧めします。